

No. 73 2014 年



# 日彫会報

公益社団法人  
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室

TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557

<http://www.niccho.com/> email: [webmaster@niccho.com](mailto:webmaster@niccho.com)

— 「社会貢献」と「原点回帰」を目指して —



第44回日本彫刻会展覧会鑑賞教室の様子

# 第44回日本彫刻会展覧会を終えて

公益社団法人日本彫刻会理事長 山本眞輔

東京都美術館に回帰して三回目の日彫展が無事終了いたしました。会員の皆様、審査員ほか関係各位に厚く御礼申し上げます。

総展示数328点。彫刻のみの展覧会としては世界的にも他に類をみません。季節も良く、春の上野を十分に楽しんでいただけだと思います。

「作品発表」と「公益社団法人としての社会貢献」を二本柱として展覧会を開催いたしました。

「社会貢献」としては彫刻鑑賞教室とタッチツアーを開催、視覚特別支援学校3校の参加をいただき、視覚障がいの方々にも作品に触れて彫刻作品の鑑賞をしていただきました。この鑑賞教室とタッチツアー開催に当たり、東京都美術館よりアートスタディールの無償貸与や広報協力など特別のご配慮をいただきました。

また、本年は東京都美術館のアート・コミュニケーターである「とびラー」の皆様も鑑賞教室を見学、第三者の視点から様々な感想やご意見を頂き、日彫友の会や日彫展鑑賞支援部との交流をすることが出来ました。改めて参加してくださった方々に厚く御礼申し上げます。

「彫刻作品」については、現代世界の潮流である具象彫刻の新しい方向を示す可能性を感じさせる作品が数多く発表されました。作家自身が自分の作品をテーマにして分かりやすく解説をする「ギャラリートーク」も開催し、約210名の参加がありました。また彫刻研究会には140名の参加を得て、作家一人一人が真剣に作品制作にとりくむ姿勢がはっきりと見えて来ました。西望賞や日彫賞、優秀賞、新人賞などの受賞作品にみられる新鮮さはこの44回展の特徴と言ってもいいと思います。若い作家が新しい感覚で、ますます自由に作品に取り組んでいることが見えたことも大きな収穫でした。「日本彫刻会新鋭選抜展」でも新しい日彫会の息吹を感じました。新しい表現の試みは、方向性を縛られるものではありません。むしろ各作家がより自由に制作、その多様性を示すことがこれからの仕事であると思います。

現代はアメリカの作家の仕事、イタリアの現代彫刻の傾向、フランスの作品評価の状況なども瞬時にして知ることが出来ます。機会があれば情報収集だけでなく、実際に世界に飛び出し充実した仕事ができるよう期待します。

# 第44回日本彫刻会展覧会報告

日本彫刻会は昭和22年「日本彫刻家連盟」としての発足以来、毎年継続して彫刻のみの展覧会を実施し、長い歴史を重ねてまいりました。幾度かの名称の変遷や法人化を経て、平成22年11月より「公益社団法人 日本彫刻会」として新たな歩みを始めています。

本年も東京都美術館にて第44回日本彫刻会展覧会（日彫展）を開催いたしました。日彫展では彫刻作品の展示のほかに、彫刻研究会、彫刻鑑賞解説会、ギャラリートーク、視覚障がい者の方への作品鑑賞支援などの活動を通して、作家の彫刻芸術の研鑽と、芸術文化の振興、社会への貢献に努めています。

そのほか、本会では地方日彫展・各種選抜展などを開催しています。（地方日彫展・選抜展について詳細は8・9・12ページに掲載）



展覧会準備風景

第44回日本彫刻会展覧会の詳細については、左記の通りです。

①会期 平成26年4月19日（土）

～4月30日（水）

②会場 東京都美術館

ギャラリーA・B・C

（東京都台東区上野公園8-36）

③陳列点数

総陳列作品数 328点

内訳 正会員 247点

会友 41点

無鑑査（一般応募） 3点

鑑査（一般応募） 37点

うち初入選 20点

④審査員

審査員長 山本真輔

圓鐔元規 小俣喜昭 楠元香代子

齋藤尤鶴 清家悟 中村優子

早川高師 原田治展 宮崎雅司

山崎和國 阿部鉄太郎 小瀧勝平

徳安和博 南川憲生

（以上15名）

西望賞審査員

市川政憲（美術評論家）

（西望賞審査講評、受賞作品の詳細

等は5・6ページに掲載）

⑤会友推挙選考委員

楠元香代子 齋藤尤鶴 早川高師

原田治展 （以上4名）

⑥受賞者

西望賞 阿部鉄太郎

日彫賞 岡本和弘 元田木山 近藤哲夫

優秀賞 鈴木紹陶武 永江智尚 長谷川倫子

森田一成 山本将之

新人賞 秋田美鈴 飯島聡恵 奥平陽和

高野直幸 宮本温子

⑦正会員推挙・会友推挙

正会員推挙

青山倫子 齋藤絃子 佐藤励

杉田幸平 武本大志 増田壽子

山川芳洋 渡部信子

会友推挙 （以上8名）

大竹和子 木藤淳成 重松濤

高野直幸 宮本温子 若海唯賀

（以上6名）

⑧入場者数 8,497名（前回8,112名）

内訳 一般 159名

学生 26名（小学生含む）

企画展協賛 160名

招待状 5,559名

招待券 994名

出品者 1,211名

障がい者手帳をお持ちの方 81名

付添者 30名

70歳以上、子供 190名

日本美術家連盟ほか 87名



会場風景 (ギャラリー A)



会場風景 (ギャラリー C)

⑨ 図録作成

平成26年4月19日(土) 発行 900冊

⑩ 彫刻研究会

受賞者及び若手作家と審査員による彫刻研究会を実施しました。

日時 4月19日(土) 午後1時30分から

参加者 約140名

(詳細は7ページに掲載)

⑪ 彫刻鑑賞解説会

審査員による受賞作品を中心とした作品解説や出品者によるギャラリートークを実施しました。

日時 期間中毎日

(彫刻研究会当日、最終日を除く)

参加者 約210名

⑫ 彫刻に触れる鑑賞支援活動

■ 視覚に障がいがある方のタッチツアー

希望者の申し込みにより随時実施

通算参加者 8名

■ 盲学校鑑賞教室

4月23日(水)

東京都立葛飾盲学校

中学生4名 引率者4名

4月25日(金)

東京都立久我山青光学園

小学生16名 引率者13名

筑波大学附属視覚特別支援学校

高校生17名 引率者4名

(詳細は7ページに掲載)

⑬ 表彰式及びオープニングパーティー

日時 4月19日(土) 午後5時から

会場 東天紅上野本店別館 平成ホール

(東京都台東区上野池之端1-4-33)

⑭ 地方展

第44回日彫展の陳列作品から62点を選出し、基本巡回作品としました。

(詳細は8・9ページに掲載)

■ 第44回日彫東海展

会期 平成26年5月13日(火)～5月18日(日)

会場 愛知県美術館8階ギャラリー

(愛知県名古屋市中区東桜1-13-2)

愛知芸術文化センター

■ 第44回日彫北陸展

会期 平成26年5月31日(土)～6月5日(木)

会場 富山市民プラザギャラリーA・B・C

(富山県富山市大手町6-14)



会場風景 (ギャラリー A)



会場風景 (ギャラリー C)



会場風景 (ギャラリー B)

受賞作品

西望賞

「56億7千万年後の君に」

阿部鉄太郎



西望賞の選考に臨んで

西望賞審査員 市川政憲 先生

(美術評論家)

昨今、とりわけ女性たちの間で仏像に対する関心が高まっていると聞きます。関心のもちようはさまざまでしょうが、かつて仏像を取り巻いてあった世界の一切が失われ、全く様変わり

した現代に、その像だけが「もの」として残り伝えられていることへの感動があるのではないのでしょうか。永い時間の中で、残るものと失われるもの、変化するもの、そして新しいものを意識させられるとき、彫刻という「もの」が開くひとつの地平が見えてくるものと考えますが、おそらく彼女たちは、彫刻という歴史、形式という考えを成り立たせる永い文化的な時間を想う以前に、遠い過去のものと同じに、現代的に関係を持つているのだと思います。あるいは彼女たちは、仏像が、一方で、儀軌に従い、形式を重視した保守的な面を持ちながら、生と死、この世とあの世の境界に対して現実的な自由さを持っていることを嗅ぎ取っているのかもしれませんが。彼女たちにとって、仏像は、形式にまつわる永い時間を顧みることなく、現在の自分に直接結びついているのでしょうか。

あらかじめ西望賞候補として選ばれた作品の置かれた部屋で、多くの人体像を前にして、形式としての彫刻が有する時間の厚み、自分との距離を知ることが出来ず、彫刻としての善し悪しの判断の難しさを痛感しました。私の能力もありますが、現代における「彫刻」の問題でもあるかと思えます。そんな中で、私は仏女同様に、自分との関係において「表面」的な、物質的な表面ではなく、形式の時間を払拭して直にひとつの間に形成する作品として阿部鉄太郎氏と森田一成氏の作品に注目しました。

□ 日彫賞



近藤哲夫  
「ぬくもり」



元田木山  
「春の兆し」



岡本和弘  
「夜の鳥」

□ 優秀賞



山本将之  
「不撓の築」



森田一成  
「大地 2014」



長谷川倫子  
「春」



永江智尚  
「煙立つ」



鈴木紹陶武  
「ひつじくもにのる」

□ 新人賞



宮本温子  
「勿忘草」



高野直幸  
「冬の日」



奥平陽和  
「日和」



飯島聡恵  
「陽風」



秋田美鈴  
「eclosion」

## ◆彫刻研究会

開催5回目を迎えた本研究会は、作家だけでなく、一般の鑑賞者を含めて毎年百名以上の参加者のある、大変意義のある研究交流会です。第44回展でも4月19日(土)午後1時から、東京都美術館ギャラリーA・B・Cにて行われました。

会場には、西望賞・日彫賞・優秀賞・新人賞のそれぞれの受賞者と、審査員・正会員・会友・入選者の方々、一般の鑑賞者を含めて140人余りの参加がありました。

冒頭、審査員を務めた山本眞輔理事長から「彫刻を見ていただいて、彫刻に興味をもち、好



賑わいをみせる研究会の様子

きになり、彫刻を生活に取り入れてもらいたい。いい作品は、前を通ると自分をよんでくれる、そんな作品をぜひ見つけてほしい」というお話がありました。

堀尾秀樹企画主任の司会のもと、それぞれの受賞者が作品に込めた思いや制作過程など語りました。新人賞を受賞した17歳の高校生の作品は、モデルを観察して真摯に制作した姿勢が印象的でした。また、審査員からはそれぞれの作品についての講評があり、新たな視点も得られ、より深く味わえる機会となりました。受賞者のもとより、制作者にとっても原点に立ち返り自身の姿勢を見直すきっかけとなったのではないのでしょうか。今後の制作に向けて、鼓舞させられ、励みとなる研究会となりました。

一般の参加者からは、「毎年参加している。若い人の表現の仕方が面白い」「自分も木彫をしているが大変参考になった」「解説を聞きながら作品を見ると面白い。作品に共感できる」というお話を伺うことができました。

この彫刻研究会はまさに山本眞輔理事長の提唱する、日本彫刻会がめざす「社会貢献」と「原点回帰」を具現する大変意義深いものでした。ただ、話が聞きとりにくくて残念という声も多くあり、来年度は何らかの対応が必要であると感じました。

研究会最後に圓鍔元規委員長から、「皆さんのお話を聞いて私自身の制作の勉強となり、また刺激となった。さらに精進していきますよ」というお話があり、閉会となりました。

## ◆日彫友の会の活動

### 盲学校鑑賞教室・タッチツアー



旧「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」は、平成18年の日彫展から始まり、日本彫刻会が提唱する「社会貢献」の一つとして、多くの視覚障がい者の鑑賞支援を行ってきました。

第44回日彫展でも、新設された日彫友の会と鑑賞支援部を中心に学生ボランティアの協力も得て、「盲学校鑑賞教室」と「タッチツアー」を行いました。

盲学校鑑賞教室は、葛飾盲学校、久我山青光学園、筑波大学附属視覚特別支援学校の引率者を含めて約60名の参加がありました。また、タッチツアーは全会期中行われましたが、今回は4月23日に限って、都美術館のホームページやチラシでの広報があり、多くの成人の方や埼玉県立特別支援学校 埼保己一学園の参加がありました。参加された生徒さんから、「私が気に入っているのは、『ガキ大将』という作品で、半ズボンにタンクトップ、そして右手に木の枝を持っていて、とってもいばっているように見えました。」「おみやげのカニがすべすべしていて、触りごこちがよかったです。大切にします」というお手紙が届きました。

# 第44回日彫東海展

会期 平成26年5月13日(火)

5月18日(日)

陳列点数 100点(内巡回作品62点)

入場者数 2,243名

中日賞

「煙立つ」

永江智尚

東海テレビ賞

「堂々」

山田剛士

愛知県知事賞

「シャコンヌ」

南川憲生

日彫東海展「愛知県知事賞」が認可され新設された第42回日彫東海展から、今回で三年目を迎えます。第44回日彫東海展の前夜祭での授賞式に、大村秀章愛知県知事が御出席され「愛知県知事賞」の受賞者に賞状、盾を授与してくださいました。



日彫東海展 授賞式の様子

東海地方最大、唯一の彫刻展であることから知事からは「作家達の芸術文化を県民に発信する業績は非常に大きいものがある」と祝辞を頂きました。本年度の「愛知県知事賞」



日彫東海展鑑賞教室の様子

の選考にあたっては、地元出品者全作品の中で最も努力がみられる作品に与える賞にしてはどうかという審査方法が述べられ受賞対象者が拡大されました。

会期中、5月17日(土)午後2時から午後3時に、本年も「触れてみる彫刻教室」が開催されました。市民ボランティア団体「ビジョン共有クラブ」からの参加者1名、個人参加1名、ボランティア2名、そこに作家が加わり鑑賞会が開催されました。参加者からは、「今年は、動物ですね、この塊は雲ですか、なぜ、雲に乗っているのですか」と作者に問いかけたり、「横に足が伸びていますね指が分かります、こんな姿勢ですか」とポーズをとったりなど作家、鑑賞者共に楽しい時間を過ごす事が出来ました。

「触れてみる彫刻展」が新聞報道などにより、触れられる彫刻展として浸透していることにより、本年は、視覚障がい者の方も鑑賞者の中に見られました。

学生には、有意義に鑑賞してもらおうように記述レポートをお願いして熱心な作品と向きあう姿を見せて頂きました。



日彫東海展 レポート記述の様子

これからも、「触れてみる彫刻展」を始めとした新たな企画を、県民、教育機関に広く呼び掛け、鑑賞者と作者の交流をはかり、楽しい芸術の発信がなされる展覧会となつて、来場者増加に繋がるよう努めてまいります。

(東海日彫会事務局)

# 第44回日彫北陸展

会期 平成26年5月31日(土)

6月5日(木)

陳列点数 87点(基本巡回作品62点)

入場者数 1,723名

北陸日彫会賞

「MAP14 (ver.2)」 石田陽介

富山新聞社社長賞

「大地 2014」 森田一成



日彫北陸展 開会式の様子

今回の初めての市民プラザでの展示となり、搬入や陳列に不安もありましたが、広さや照明など大変優れ

日彫北陸展は富山県と石川県で会場を毎年交互に替えて開催しています。本年度は富山県民会館美術館改装に伴い、新たに富山市民プラザギャラリーで開催しました。富山会場では作品解説会や、触れて見る彫刻、新しい企画として親子彫刻ワークショップ「家族を作ろう。みんなの笑顔」を開き、また富山市内の富山大和デ

るい会場になり、コンパクトにまとまった充実した展覧会になりました。またこの期間、富山市内の大きなお祭りとなつて入場者が増えたことは大変うれしいことでした。



日彫北陸展作品解説会の様子

要望に答え解説も行いました。触れて楽しむ彫刻は46点。鑑賞者に大変評判がよく、一つ一つ触れて材質の面白さや、表現の仕方などを感じていました。「木の温もりが感じられた」とか「金属の重量感や冷たさを感じた」等の感想をいただき、彫刻の魅力が増えて作家と鑑賞者の距離が近づいた様な気がしました。

作品解説は、

開会式のあと入賞者の作品を中心に山本眞輔理事長が解説をされ、後で作者が自分の思いを語りました。制作意図や彫刻への思いなどを聞くことができ、参考にになりました。その日の当番に当たった会員は来館者の

特別企画の親子ワークショップは、富山では初めての企画で11名が参加し、子どもたちが粘土を使った造形を家族と楽しみました。「家族で作ろう。みんなの笑顔」をテーマに北陸日彫会員が指導し、20cm程度の針金の骨組みに粘土をくっつけて思い思いの形に仕上げました。低学年の子どももいたので自由に楽しく作ってもらいました。中には、とってもユニークな発想をする子がいて大変驚かされました。一時間余りの彫刻教室でしたが、「家に帰ってから色をぬって楽しみたい」と出来栄に満足げで楽しそうでした。この企画を通じて彫刻に少しでも興味を持っていただけます。

デパートでの会員作品展を同時開催したので、会員の皆様には事業が重なり忙しい一週間となりました。しかし、積極的に当番に出ていただき、観覧者と話をもち機会が出来たので、彫刻の理解と作家の思いを知っていただく良い展覧会になったと思います。



親子ワークショップ

(北陸日彫会富山事務局)

# 初めて彫刻展をみる方へⅦ

## —ブロンズ鑄造技法—

### ロストワックス製法

彫刻制作に用いられるブロンズ鑄造技法には、主にガス型製法とロストワックス製法があります。ここではロストワックス製法の原理について、簡単な形の梵鐘を使って説明していきます。

ロストワックス製法とは、ロウを利用した鑄造方法です。原型を基にシリコンゴムで雌型を作成し、原型と同じ形のロウ型をつくり、ロウ型の周りを鑄砂で覆い固め、焼成します。熱でロウを溶かして、除去することによってできた型の空洞に、溶かした金属を流し込むと鑄物ができます。

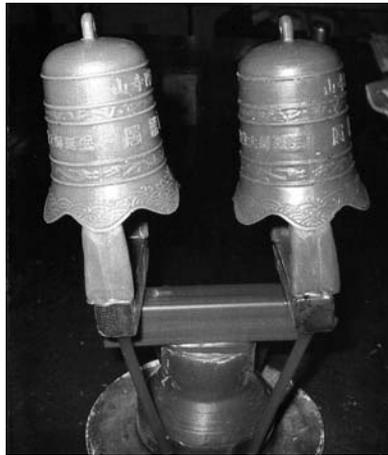
原型から直接鑄型を作るガス型製法とは異なり、この製法では鑄型中のロウ型は溶かしだします。そのため、抜き勾配やアンダーカットを考える必要がなく、複雑な形状のものを一体化して鑄造することができます。収縮率を考慮して原型を作る必要がありますが、面倒な加工等を減らすことができ、量産も可能です。

彫刻制作において、紀元前より西欧で発達したロストワックス製法は、複雑な原型を忠実に写し取ることができるという利点があります。その特徴が見直され、近年では工業面にもロストワックス技法が用いられるようになってきました。ジェットエンジンのタービンや部品など、精密鑄造技術として広く工業製品や機械にも利用されています。

賛助会員 竹中銅器 高辻武男



③ ワックス原型（ロウ）の周りを鑄砂で固める



② ロウに置き換えたものにブロンズを流し込む湯口を付ける



① シリコンゴム型にてロウに置き換える



⑥ 湯口を切り落とし完成



⑤ 型から取り出した成型品（まだ湯口が残っている）



④ 熱でロウを抜き去った鑄砂の型に溶かした金属を注ぐ

# 市村緑郎先生を偲んで

日本彫刻会 運営委員 中村優子

日本彫刻会前理事長であり、これまで日本の具象彫刻の一翼を担ってこられた市村緑郎先生が、平成二十六年四月二十七日に七十八歳で逝去されました。あまりにも突然の訃報に、哀惜の念に堪えません。

先生は茨城県下妻市のご出身で東京教育大学を卒業され、その後埼玉大学、崇城大学で教鞭をとられました。

私が初めて先生にお会いしたのは、埼玉大学に入学した春でした。先生がちょうど文部省派遣の欧州視察から帰られた時で、イタリアやフランスで見てこられたことを、本当に楽しそうに話してくださいました。よく覚えていません。以来、先生に師事することとなりました。

先生はいつも「目線だけで形をつくっているのは、恐ろしいことだ。」と、おっしゃっていました。「ポーズ間の休憩は、制作者の休憩ではない。」と、制作中に決して座ることはありませんでした。一緒に制作していた学生は、先生が厳しく作品と向き合われる姿に圧倒されながらも、彫刻をつくるということの本質を、この時学ぶことができたように思います。

そんな先生も授業が終了し、夕方からの制作に向かう合間には、学生を相手によく大好

きなフリスビーをなさっていました。誰よりもまっすぐに遠くに飛ばされては、とても大きな声で喜んでいらしたことを懐かしく思い出します。

ある時、飛行機から、夕陽に照らされ茜色に輝いていた雲海を見て、小さな窓に顔を押し当てようようにしてデッサンをなさっていたことがありました。自然の中にある様々な造形に感動され、それが先生の豊かなイメージと結びつき、そこに卓越した造形力が加わりました。妥協なくつくりあげられた作品はその凛とした佇まいのなかに崇高な精神性をたたえ、みる人の心を強く揺さぶるものばかりです。

また、先生は、日展、日彫展で活躍される一方で、高村光太郎大賞展やロダン大賞展にも出品され、優秀賞を受賞されるなど活躍の場を広げていらっしやいました。その作品は日頃の写実とはうって変わって、単純化されたフォルムの組み立てからなり、新たな境地を築かれたものでもありました。

平成二〇年には芸術院会員に就任され、平成二十一年には下妻市の市民栄誉賞を受けられました。

彫刻家であると同時に、教育者としてもたくさんの後進を育てられた先生。大きな声でお笑いになり、彫刻の話ばかりされていた先生。彫刻をつくることは生きること、そうおっしゃっていた先生。昨年の個展では真の具象彫刻とは何なのか、まだまだ追求してやまぬものがあるとおっしゃっていました。それなのに何故こんなに早く逝ってしまわれたのか、残念でなりません。

先生が彫刻にかけてきた情熱は誰も真似できないものではありませんが、その作家としての姿勢を僅かでも受け継ぐことが、先生への恩返しと思ひ、長年のご指導に深く感謝申し上げます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



## 第9回日本彫刻会新鋭選抜展

6月の初旬、今回で第9回目となる日本彫刻会新鋭選抜展が開催されました。本展は、「Each episode」と題され、それぞれが制作に込めた思いや、その表現に至った経緯などを感じさせる展示となりました。

開催に関する詳細は左記の通りです。

会期 平成26年6月1日(日)～6月14日(土)  
会場 美術館・ギャラリー青羅

11時から19時まで

東京都中央区銀座3-10-19

出品者 上松真弥 小関良太 梶川俊一郎  
神谷睦代 桑原秀栄 小橋暁子  
小宮山美貴 佐藤徹 志満津華子  
鈴木紹陶武 高石麻代 高野眞吾  
武本大志 田村さつき 寺山三佳  
時田直彦 徳安和博 永江智尚  
丹羽俊揮 長谷川倫子 三宅信行  
宮坂慎司 森矢真人 山本将之  
横山丈樹 (以上25名)

展覧会初日には作品を語る会(オープニングパーティー)が開かれ、多くの方にご来場いただきました。若手作家の実験的・意欲的な彫刻表現も多く、作家が語る制作の背景についての話には来場者も興味深そうに聞き入っていました。作家同士の彫刻談義も盛り上がりを見せ、実りのある交流の場となりました。



作品を前に制作を語る若手作家



第9回日本彫刻会新鋭選抜展 展示の様子

### 訃報

左記の方が長逝されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

正会員 城ケイ子先生  
平成二十六年三月

常務理事 市村緑郎先生  
平成二十六年四月

運営委員 小野澤健一先生  
平成二十六年五月

### 編集後記

◆日彫会報第73号の発行に際しまして、ご協力いただきました先生方並びに、市川政憲先生、賛助会員高辻武男様には大変お世話になりました。編集後記をかりまして御礼申し上げます。

◆今回号より、新しいメンバーによる会報の編集となります。一同協力して、日本彫刻会と彫刻芸術に関わる情報の発信に努めていく所存です。ですので、よろしくお願い致します。

◆新しい企画等についてご意見などありましたら、是非編集委員にお寄せください。皆さんとつくる会報を目指してまいります。

編集委員 村井 良樹 上田 ふみ 長谷川倫子  
一 鍛田 徹 前芝 武史 宮坂 慎司

日彫会報 No.73 平成26年8月31日発行